

第 3 3 回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成 2 4 年 9 月 6 日 (木) 午後 3 時 0 0 分～午後 5 時 1 5 分
開催場所	滝川市役所 3 階 3 0 2 会議室
出席状況	【委員】 出席：石井委員長、伊藤副委員長、岩本委員、檜原委員、中村委員、松井委員、水戸委員、山田委員 欠席：加藤委員、藤井委員 【事務局（滝川市）】 市民生活部くらし支援課 配野課長、橋本副主幹、畠山主事
議事内容	1 開会 2 委員の交代について 滝川市校長会から田代校長先生（滝川第一小）に委員として就任をいただいていたが昨年度末に退職されたことから、松井校長先生（東小学校）に残りの任期において後任委員を務めていただくこととなったことを報告。松井委員からも委員就任の挨拶をいただいた。 3 年次報告書の作成及び公表について 市から前年度の環境に関する取組や計画の進捗状況等について周知するための年次報告書案について説明を行った。（→資料 3） これに対する各委員からの意見等は次のとおり （1）「資源の環（わ） 循環物語」について 委員長）P3の「図 1 燃やせるごみの組成内訳」で、プラスチック類36%とあるが、このうち、どれくらいの割合で（現在、分別収集対象となっていない容リ法で規定されているいわゆる）「その他プラ」が入っているのか。 事務局）組成調査の結果では、全体重量を100として、その他プラは33.8となっている。 委員長）ほとんどがその他プラで、現在、資源として分別されているペットボトルは含まれていないということになる。また、通常、紙は重たいので、重量比として多くなるが、比較的かさがあり軽いプラスチックがこれほどの重量比を占めているのであれば、かなりの量を含んでいるという印象を受ける。また、紙類の39%には、いわゆる雑紙（ざつがみ）も含まれているのか。 事務局）現行の分別において雑紙は燃やせるごみとして収集しており、そのようになっている。また、紙類の内訳としては容器包装が16.5%、それ以外が22.2%となっているが、古紙として回収している新聞や段ボール、雑誌などは含まれていなかった。 委員長）今回の調査はあくまで一部を抽出したもので、一概には結論づけられないが、市民にリサイクルのためにさらなる分別を促しても、現状はもう、資源として分別するべきごみがあまりない、といった状況なのではないか。

	事務局) その辺については、滝川市廃棄物減量等推進審議会からの答申でも触れられており、さらにはプラスチックをはじめ、分別収集やリサイクルを行う場合でも、収集や処理のコスト、エネルギー収支など、多角的に検討をした上で、対策を講じるべきとの意見をいただいている。なお、市では現在、小型電子機器の回収について検討を行っている。 委員長) 数値目標の一つにもあるが、現行の国が定義しているリサイクル率の算出方法にある種の矛盾を抱えている。例えば、廃棄物を焼却して熱回収なり発電してもそれらはリサイクル率の向上には寄与しない。今後、そういう数字に表れない部分での貢献についてもアピールしていく必要があるのではないかと。隣の町がプラスチックのリサイクルをやっているからといって必ずそれに倣う必要もないのではないかと思う。 事務局) うちのような生ごみのバイオガス化などは象徴的で、生ゴミはほとんど水分なのでリサイクル率はほとんど稼げない。見方を変えれば、マテリアルにこだわらずに、最終処分の割合が少なく、その過程でいかに資源としての活用が進められているかといったことが一つの指標となり得るという考え方もあるのではないかと。 委員長) ここに、最終処分量が書かれていないのでデータとして追加すべきである。 委 員) 札幌市では回収したプラスチックはどう再生利用されているのか？ 委員長) 札幌市のプラスチックは、以前は油化などに取り組んでいたが、今は製鉄所の還元材として利用されている。 委 員) プラスチックの分別収集が、そのまま環境のための取組と認識して良いかどうかは難しいところである。 委員長) 例えば、ペットボトルはリサイクルされるからといって、その生産量は昔に比べるとものすごく増えている。これが果たして良いのかということである。リサイクルするにも様々なコストやエネルギーがかかっていることを認識しなければいけない。リサイクル率だけでは判断できない部分がある。 委 員) 民間企業では国とは違う形でリサイクル率を独自に決めている例がある。国は国のやり方でやっておいて、自分のところで決めたリサイクル率などの指標を示すという方法もある。 委員長) ある市ではリサイクル率は96%と公表しているが、これはリサイクルに向けた廃棄物の割合が96%ということで、それが再生利用されているかどうかまでは関与していない。最終処分量の記載も含めて市民の努力が見えるような指標というのも一つ付け加えてもいいと考えられる。 委員長) 集団資源回収の回収量が減っているが、団体数も減っているのか？それとも団体数は変わらず、一つの団体が出すごみの量が減っているのか？ 事務局) 取り組んだ団体数が減少している。 委員長) 昨年の会議で、平成15年度の新しいごみ処理制度発足時のように町内会の取組を活性化できないのかという意見が出たところであるが、それはどれくらい進んでいるのか？ 事務局) 実質、まだ着手できていない状態ではあるが、廃棄物減量等推進審議会の方
--	--

	からも同様の指摘を受けている事項でもあり、本年度の残り、もしくは来年度中には、必ず取り組みたい。 (2) 「創エネ・省エネ物語」について 委員長) P5の省エネモニターのCO₂削減量だが、ここの増減要因が、各家庭で見れば、例えば世帯構成員の人数が変わっただとかそういった省エネとは関係のない要因を含んでいる場合があるかもしれない、単純な増減だけでは判断ができない部分もある。そうした要因を排除できるような例えば一人当たりの排出量だとか何らかの目安のようなものを示して行くことも考えるべきではないか。 事務局) スペースの関係上、ここでは詳細を示していないが、省エネモニターを実施した際にある程度のデータのとりまとめを示しているが、ここにももう少し、そうした観点から説明を加えていきたい。 委員) ヒートポンプやLED電球等の省エネ機器を導入してもかなり効果があるはずで、そういった要因も増減に影響してくるはずだが、そうした点の把握はしているのか。 事務局) 省エネモニターでは、参加者にコメントを書きいただく欄を設けているのでそうした変動要因などは記載してもらうこととしている。 委員長) 今後、モニターの対象が灯油やガス、ガソリンなども加わってくるとのことだが、電力については排出係数の変動によって、電力消費量の増減とCO₂排出量の増減がリンクしないことがあるので、その辺りはもう少し説明を加えながら、表現していく必要があるのではないか。 委員) 公共施設におけるエネルギー消費量については、単純に減れば良いというものでもないと思う。例えば、病院などをはじめ利用者が増えればエネルギー使用量も増えるようなケースもあるのではないか。また、個人がばらばらにエネルギーを分散的に消費するよりも、こうして公共施設の使用率が上がって集約的に活動を促すことで全体としては省エネになるといった考え方もできるのではないか。数字での増減に加えて、公共施設としての省エネに向けた取組の内容なども示した方がよいのではないか。 事務局) 公共施設のエネルギー使用量が増えた要因としては、改築された市立病院の開業が考えられる。省エネに配慮された設計等にはなっているものの、やはり改築前に比べると医療設備の充実や快適性の向上などから総体的にはエネルギーの消費量は増えている。 (3) 「農・山・川（ノー・ザン・リバー）物語」 委員) P10にある農業体験授業（事業）については、自分たちの団体でも取り組んできており、8月には教育ファームという宿泊型の農業体験事業も行った。今の子どもたち、そして、その親も含めて、いかに自然のことを知らないかということを実感する。 事務局) そうした民間団体の取組も重要ですが、学校が農業体験をやるとした場合の課題としてはどういうことがあげられるのか。
--	---

	委員) 5年前に学習指導要領が変わった際に、食育を学校の年間計画に位置付けるようになったが、例えば講師を学校に招いて子供たちが話を聞かせてもらうというのは割とスムーズにできる。しかし、外に出たの体験学習ということになると、学年間の実施内容の調整や、準備に要する時間、そういった学習の場の確保、農業者の協力の取り付け、家庭の理解・協力など、クリアすべき課題がいくつかある。 委員長) ここで、市役所の取組だけでなく、民間団体の取組がピックアップされていることについては評価したい。そこで、一目見て、どの団体がどういうことをやっているのかということがわかるようにさらに書き方を工夫してほしい。また、ここでの掲載する取組事例の基準については、例えばエコネットに登録している団体からだとか一定の基準をオープンにしておいた方が良いのではないかな。 (4) 「人の環(わ)づくり物語」 委員長) 昨年来、本委員会でも民間団体等のネットワーク構築に資する取組をとということで提言してきたところであるが、23年度に「たきかわエコネット」が立ち上がった。これからいかに広く活用されるように運用していくかが大事である。また、イベントの平均評価点も83.6点と、目標には達しなかったが、かなり高い点数を取っている。 事務局) 以前から、委員会からのご意見として市の取組は一般市民へのPRが足りないというご指摘を受けている。このエコネットもなるべく多くの方々に活用していただけるような工夫をしていかなければいけないと考えている。 4 評価シートの形式の修正について 事務局から資料4を元に評価シートの形式の修正について説明を行った。 事務局) 昨年までの評価シートだと、行政の取組の羅列となっていたが、これまでの経過や今後への展望などについての説明欄を新たに設けた。また、評価を書き入れる欄についても、A～Dの評点のほかに必要に応じてコメントも入れられるようにした。 委員長) 今回から評価シートを変更することについて提案があったが、よろしいかな。 (一同、異議なし) 5 その他 10月10日に開催される食育講演会についての紹介を行った。 6 閉会
--	--